

春の美術館めぐり

～軽井沢千住博美術館・セゾン現代美術館～

2018年5月30日 45名参加

🌀 軽井沢千住博美術館

At World's End -新作「地の果て」に至るモチーフの系譜

2018年3月1日～2018年12月24日



2011年オープン（設計 西沢立衛）
自然光があふれる光井戸、周囲の緑が見通せる
ガラス張りの壁、もともとの地形を生かした床の起伏。
今までになかったような解放感、作品と建築の
一体感を体験できる。

千住博（1958～） 日本画家

常に“時間”というコンセプトが貫かれている。時間は空間とともに世界を成立させる基本。時間を表現することは、この世のあらゆる事象を表現すると考えている。ビル、森、湖、滝など様々なモチーフを通して、時間を表現し続ける。

代表作「ウォーターフォール」は1995年ヴェネツィア・ビエンナーレで名誉賞受賞。

《本邦初公開》

「滝」(フォール)に続くテーマ、「崖」シリーズの最新作
2017年にニューヨークで発表した「At World's End」
(地の果て)を本邦初公開。

また、フォールシリーズの最新作の癒される空間
「カラーフォール」を上映している。

🌀 セゾン現代美術館

レイヤーズ・オブ・ネイチャー その線を超えて

2018年4月21日～2018年9月2日

フランス真悟 / クリスチャン・アヴァ / サム・フランシス

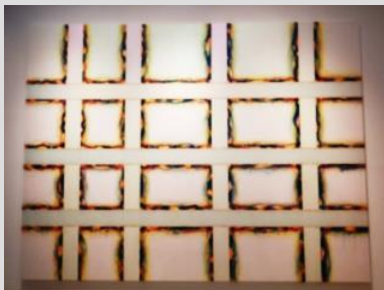
1962年東京高輪に日本の伝統美術を紹介する美術館としてオープン（旧高輪美術館）。1981年現代美術に対象を定め軽井沢に移転。



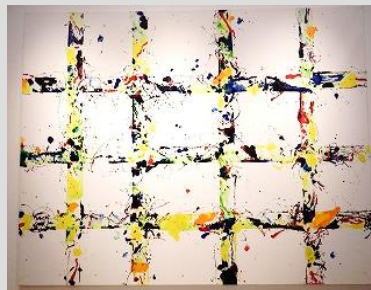
フランス真悟 「Bound for Eternity (red)」



クリスチャン・アヴァ 「Christian's waterfall installation "Season"」



フランス真悟 「Matrix (green-violet)」



サム・フランシス 「Untitled」



サム・フランシス 「Untitled WC0011」